

## 「緑の養子制度」で花と緑がいっぱいのまちづくり

一般家庭や公共施設、イベント会場などで不要になった花の苗や木（移植の可能なもの）、土、肥料等を希望者に仲介する「緑の養子制度」をつくり、花と緑がいっぱいのまちづくりを進める提案を行った。

「緑の養子制度」は NPO 団体等からなる緑化支援センターが中心となって運営する。緑化支援センターを、地域の緑化普及活動拠点として位置づけ、仲介組織としてだけでなく、児童の体験学習の場やガーデニング教室等を行う場所とする。

## 「緑の養子制度」で花と緑がいっぱいのまちづくり

### 1. 提案の背景

一人暮らしの母は定年後、庭づくりに力を注いでいる。春にはマーガレット、ビオラ、ポピー、夏にはヒマワリ、キンセンカ、マリーゴールドなど、季節ごとの美しい花が庭にあふれ、実家に帰るたび、やさしく出迎えてくれる。母は、庭づくりが生き甲斐になっているようだ。花の手入れを眺めていると、小学生の女の子が「こんにちは」と声を掛けてきた。母は「こんにちは」と挨拶して、私に「あの子、最近よく、うちの庭を見に来るんよ」とうれしそうに笑った。花が縁になった地域コミュニティが、ここにはあるのだと私もうれしくなった。その一方で、花の苗代が家計の負担になっているのではないかという心配もある。行政の補助や種苗を分けて貰える仕組みがあるといいのだが。

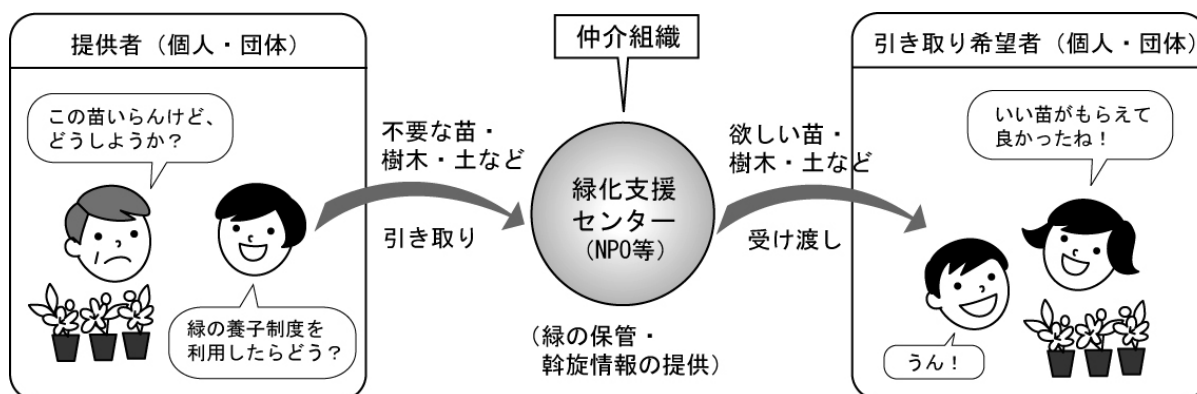
また先日、ナーセリー勤務の友人が、「最近、大きく育ちすぎた観葉植物をもう育てられないから引き取ってくれないかという相談が多い。土の不法投棄も増えてきた。」と嘆いていた。開催中のアイランド花どんたく等、イベント会場に植えられた多くの植物は、開催期間が終わった後、廃棄されるのではないかという心配もしていた。

以上のようなことがきっかけとなり、誰かが不要になった緑を必要とする人へ渡す「場」づくりができないか、動物の里親探しのように緑の里親探しができる身近な仕組みづくりについて考え、「緑の養子制度」の提案を行うことにした。

### 2. 提案内容

#### ●「緑の養子制度」の仕組み

一般家庭や公共施設、イベント会場などで不要になった花の苗や木を希望者に仲介する「緑の養子制度」をつくり、花と緑がいっぱいのまちづくりを進める。その体制イメージは、下図のとおりである。



「緑の養子制度」の中心となる緑化支援センターは、できれば、NPO 団体等が運営し、地域の公民館やスーパーなど、紙パックやトレイ、空き缶のリサイクル活動を行っている場所に間借りして設置することが望ましい。

これにより、地域全体のリサイクル意識を高めると同時に、緑化支援センターが地域内に複数できることから、子どもや高齢者が気軽に歩いて苗などを受け取りに行きやすい環境づくりができる。

### ●「緑の養子制度」で仲介するもの

- ・ 花の種、苗
- ・ 樹木（移植の可能なもの）
- ・ 土、腐葉土
- ・ 肥料（化学肥料、液肥の余ったもの、生ゴミをコンポスト化したもの）

### ●「緑の養子制度」の活用策

「緑の養子制度」では不要な緑を仲介するだけでなく、「緑の養子制度」の活動を学校教育に取り入れ、子ども達が楽しみながら緑の大切さについて体験学習を通じて学べる環境教育に活かしたい。

また、地域住民の環境に対する意識の高まりや、自然とのふれあいに対するニーズが多様化しているなか、緑化支援センターにおいてガーデニング教室やハンギングバスケット教室、樹木の剪定教室等を開催するとよいのではないだろうか。

さらに、行政と協力しながら、緑に関する住民活動の支援や相談の窓口として「緑の相談コーナー」を設け、緑化意識の高揚や植栽知識の普及を図ることに活用できると考えられる。

## 3. おわりに

「緑の養子制度」の活用により、住宅地の生垣や庭木の植栽、ベランダの緑化、駐車場や屋上の緑化などの身近な緑を創り出すことにつなげていきたい。

また、緑化支援センターで住宅地などの民有地緑化の進め方を書いたマニュアルやパンフレットの作成・配布を行い、同センターを緑化の普及活動拠点として位置づけたい。

私たちの街のどこから見た景色にも花や緑があると、居住者はうるおいを感じながら生活できると思う。街に訪れた人にとっても、その街のイメージアップにつながり、快適な時間を過ごすことができるだろう。

きれいな花の咲く花壇にわざとゴミを捨てる人はいない。花や緑が街中にあることで街全体がきれいになり、地域に暮らす人々が自分の住む街に誇りが持てるようになるのではないだろうか。